随筆 〈5〉

市長 明智忠直

地球温暖化と日本の四季

新しい年を迎え、巡り行く季節をふと思い浮かべ、日本の四季の美しさと時代の移り変わりを感じながら一年を振り返り、正月の日々を送っています。

時代はその季節感さえ狂わせるほど、変わってきていると思います。昨年末、デンマークで国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議（ＣＯＰ15）が開かれました。温室効果ガスの削減問題で、大変な議論がありました。今地球上で、温暖化が最大の問題になってきたと思います。異常気象の続く中で起こる大規模な自然災害。海面の上昇により国土が水没の危機にある国々。一方で、温室効果ガス削減による経済の落ち込み予想から、途上国と先進国の確執。そして最貧国の思いなど、さまざまな事情により明確な方向性を出すことができない結果に終わったようであります。

そんな中、日本はここ2～3年暖冬が続いており、四季も確実に、めりはりが無くなってきたと感じられます。正月を迎え、氷の張る水面や雪、冷たく吹く木枯らしなど、手がかじかむような寒さも少なくなった冬を暮らし、これでいいのだろうかと思うこともあります。しかし、人々の心は昔と変わらないわけで、門松を飾り、大掃除をしたり障子を張り替えたりして、新鮮な気持ちで正月を迎える、そこに日本の冬の美しい光景を垣間見ることができます。今のところ、温暖化の影響が少ない春。野に咲くスミレ・菜の花・桜・アヤメなど、特に桜の散る下を歩く風情は、人の心を美への憧れ、そんな意識を持たせてくれる情感があります。夏の太陽・海のレジャー・夏山・各所で行われる祭り・花火大会など、夏は生命への強さを感じさせてくれる季節であります。そして秋。一年間の集大成のようであり、また日本人の郷愁を呼び起こす季節でもあります。

温暖化の中でも、日本の四季は私たちに生きる喜びと潤いを感じさせてくれます。世界中の人々の努力と英知で、この季節感を維持していけるようにと願います。